



これから冬本番

寒い毎日が続いています。今月の 15 日が冬至とうじでした。この日、我々の住む北半球では太陽の南中高度が最も低く、一年で昼が最も短くなります。皆さんのなかには南瓜かぼちゃを食べたり、柚子湯ゆずゆに入ったりした家庭もあったでしょう。南瓜にはビタミン A やカロチンが多く含まれ、風邪の予防になります。野菜が不足しがちな冬場、比較的保存のきく南瓜を食べ冬を乗り切ろうけしという昔からの生活の知恵です。

冬至の反対は夏至です。この日は一年で昼が最も長く、太陽の高さが一年で一番高くなります。今年 6 月 21 日でした。地球は自転していますが、この様に昼夜の時間が変わるのは地軸が傾いているからです。

ほかに、「春分の日」や「秋分の日」があります。春分の日や秋分の日には昼と夜の時間が同じです。春から夏へ切り替わるのが「春分の日」、秋から冬へと切り替わるのが「秋分の日」と考えても良いでしょう。暦から計算してみると、「春分の日」から「秋分の日」までの間は 187 日間、「秋分の日」から「春分の日」が 178 日間でした。合計するともちろん 365 日になりますが、ちょうど半分の 182.5 日ではありません。春から秋の方が秋から春までより 9 日間長いことになります。ここから、地球の軌道は円形ではなく、楕円形になっていることが分かります。

お正月(終業式での話)

あと一週間でお正月です。年の瀬すすはらいから松の内まで、皆さんのうちではどんな風にして過ごしますか。年の瀬に大掃除お掃除(煤払い)をすませ、門松しめなわや注連縄しめなわ、床の間に鏡餅かがもちを飾ります。これらはその年をつかさどる歳神としがみを祀まつるためであり、新年の家内安全を祈るためでもあります。注連飾りや門松を立てるのは「結界」で、悪霊の侵入を防ぐという意味があります。門松は一月十五日の小正月に取り外すところから、この期間を「松の内」と呼ぶようになりました。鏡餅はトンド祭りの火で焼いて食べます。トンド祭りというのは長い竹を 3、4 本組んで立て、そこにその年に飾った門松や注連飾りや書き初めを持ち寄って焼く火祭りです。注連飾りなどの灰を持ち帰り、自宅の周囲にまくとその年の病を除くと言われていましたし、書き初めを焼いた時、炎が高く上がると習字が上達すると言われていました。

お正月といえばおせち料理です。もともとは年始客のために用意したのですが、重箱に詰め、小皿に取り分けて食べました。また、年始の挨拶として、小さな餅を持って行ったりもらったりする習わしがありました。これには自分の家に招いた歳神としがみのおかげおすそわけをお裾分けするという意味がありました。これが、子ども達が待ち望んでいる現在の「お年玉」につながっています。お雑煮もそれぞれの地方の特徴が出るようですが、味噌仕立てやすまし汁など様々です。これら昔からのしきたりには全て意味があります。

大晦日は「紅白歌合戦」を見て、その後は NHK の「行く年来る年」を見る家庭も多いでしょう。そして、元旦は初詣に出かけ、厳かな気持ちに浸る時でもあります。過ぎ去った平成 25 年を思い出しながら、平成 26 年をどの様にしていくのかに思いをめぐらせます。新年が良い年になるよう、小さな努力を積み重ねてください。「継続は力なり」です。

皆さんや皆さんのご家族にとって素晴らしい一年になるよう祈っています。